



# 地域経済季報

(令和5年10~12月期)

**総評** 今期は、神在月シーズンの影響もあり、観光関連業では、観光客の来松が増え旅館・ホテル業では、高水準の稼働率となった。ビジネス客の利用もある中、訪日外国人の姿も伺え売上は回復傾向にある。飲食関連業では、行楽シーズンと忘年会シーズンを迎え、食事をメインとして提供する業態を中心に前期比で増加となった。しかしながら、多くの店舗で従業員の確保難に陥っており、予約を断ることや営業日数を減らす事業所もあった。業種を問わず慢性的な人手不足問題は続いている。小売業では地元量販店は、季節に合わせたセール(ハロウィン、クリスマスなど)の実施やお歳暮需要で売上が増加した。建設業・製造業の売上は横ばいの状況が続いており、建設資材等の仕入単価・人件費・物流費の高騰も同じく続いているため収益を圧迫している。10月から開始されたインボイス制度については手探りの状況である事業所も多く、特に免税から課税となった事業所は消費税申告への対応も必要であるため、今まで以上に決算に時間を要することが見込まれる。

来期は、観光関連業は閑散期に入るため、観光客や地元客からの利用減少に対し、営業時間・人員見直しなどの改善策を講じる必要がある。また、「働き方改革関連法に伴う時間外労働の規制強化」(以下、2024年問題)での輸送能力の不足によるモノの流れの停滞、建設資材価格・エネルギー価格の高騰は、多くの業種に影響を与え、厳しい状況が続くと見込まれる。

他にも令和6年1月から開始される改正電子帳簿保存法については、対応に不安を持つ事業所も多い。

		前期状況 (7~9月期)	今期状況 (10~12月期)	来期見通し (1~3月期)	調査事業所のコメント
建設業		→	→	→	今期は、国土強靱化関連事業として、災害復旧工事で老朽化の進む道路・橋梁・トンネルなどの社会インフラに係る点検業務もあり右肩上がりへ推移している。他方、建設資材価格が依然として高止まり状態にあり、担い手不足については、若手労働者が圧倒的に不足しており、「2024年問題」を含め対応が急務である。来期は、公共施設の建築工事や県営住宅の解体撤去工事を控えているほか、山陰道はもろちんのこと、大橋川や松江北道路関連の発注を含め、より活発な動きに期待する。
製造業		→	→	→	今期は、依然として物価の高騰が続いており、原材料仕入単価だけでなく物流費、人件費も含めコストアップが重なるもの全てを価格転嫁することはできず、収益の悪化に苦しんでいる。物流においては「2024年問題」が、原材料の輸送や完成品の納品に影響を与えている。来期は、世界情勢の悪化や円安の影響もあり、大手メーカーにおいては、生産拠点の移転や、サプライチェーンの見直しの動きなどがあり、今後の動向を上注しては監視する必要がある。
卸売業		→	→	→	今期は、前期並みの売上を確保しているが、原材料の高止まりによる粗利率の悪化や人件費、運送費、電気料金等の上昇による利益率の悪化が生じている。来期は、2024年4月に物流業界にも適用が始まる、「2024年問題」への対応が迫られる。それに伴う輸送能力の不足、モノの流れの停滞が懸念されるため、事務の効率化、生産性向上に努める。
小売業	衣料品	→	→	→	今期は、夏日が多く観測されるなど気温の高い日が続いたため、秋物衣料の動きが鈍く、コートやジャンパー、セーター類などの冬物も販売開始が遅くなった。また、消費者の二極化によるメーカーの適時適品適量生産の影響もあり、消費者の希望と仕入れにギャップが生じた。これらの事から前年同期比売上減少。来期は、地元百貨店が閉店を迎えることとなり、他の婦人衣料専門店がどれだけ新規顧客の需要を吸収できるかに期待。一方で、コロナの自粛によってネット販売での購入や県外消費が増えたことが懸念される。
	家電	→	→	→	今期は、例年暖房需要に切り替わる時期であるものの、10月は例年よりも高温となる日が多く、暖房需要のエアコンは動き出しが遅くなった。また、物価高による商品価格上昇も消費低迷に影響を与えている。来期は、暖房器具の販売や新商品への買替需要を掘り起こしていきたい。また、夏季パリオリンピックも控えていることから需要の盛り上がりにも期待したい。
	自動車	→	→	→	今期は、半導体をはじめとする部品不足等に起因した新車の納期長期化は続いているものの、供給網の乱れが一段落しつつあり、また半導体などの部品不足も徐々に改善しつつあることから、新車登録台数は前年同月比増加傾向にある。来期は、部品不足問題や一部納期の長期化・受注停止等不透明な状況にあるが、新型車投入による受注状況の好転が伺える傾向も見え出しており、決算期に向けた販売回復に期待。
小売業	総量販店	→	→	→	今期は、10月のハロウィン、11月のブラックフライデー、12月のクリスマス等のイベントに合わせた大規模なセールを実施、来店者も多く、前年同期比で売上は増加。市内百貨店は、令和6年1月の閉店に向けてのセールを実施しており、単価の高い服飾品、また年末に向けての食料品需要があり売上、利益ともに順調に推移した。来期は、商品単価の値上げ等による買い控えを懸念。
	スーパー	→	→	→	今期は、原価上昇に伴う売上アップは続いたものの、カテゴリによっては前年を下回る商品もあった。11月半ば頃からようやく気温が低下し季節商材が動き始め、イベント・行事などの特注、クリスマスや年末の予約注文なども好調であった。売上高としては好調が継続しているが、値上げによる単価上昇と、客数・買上点数の伸び悩みというせめぎ合いが続いている。さまざまなコスト上昇の中で単価下落の基調には転じないと推察されるが、好調な販売動向の維持に向け、買上点数の回復が急務となる。来期は、資金アップが地元の中小企業に行き渡り、消費マインドが上昇することを期待。
	特産品	→	→	→	今期は、一部の商品に原材料の高騰による値上げがあったもののビジネス客、観光客の増加からお土産品として買い求める需要が多くコロナ禍の前年より売上は堅調に推移した。来期は閑散期であることから人の移動も少なく、当地特産品への需要期待も薄い。
サービス業	飲食	→	→	→	今期は、行楽シーズンと忘年会シーズンを迎え、いずれもコロナ禍の前年から堅調に回復したことにより、食事をメインに提供する業態を中心に売上は前期比で増加となった。しかしながら多くの店舗で従業員の確保難に陥っており、一部店舗では宴会等の予約を断ったり、営業日数・時間を減らすなどの対応も散見された。来期は、閑散期となるため、売上の的にやや厳しくなると予測されるが、それ以上に人手不足や買上げ等の課題が重くのしかかり、求人方法、営業時間・人員配置の見直しなど模索しながらの経営が続く。
	旅館・ホテル	→	→	→	今期は大幅に実績が上昇し、10~11月の稼働率はほぼ90%以上の水準となった。神在月の観光客に加え訪日客、ビジネス客ともに好調であった。予約形態としては特にOTAを通じての伸びが著しく、コロナ禍で抑制された需要の反動が大きい。年末の予約はスローペースで推移しており、全国旅行支援が断続的ではなく通年であればさらに良い結果になったと予想される。来期は、閑散期に入るため、1~3月はさらに伸び悩みが懸念される。安定した冬季集客については課題を抱える。
	運輸・旅客	→	→	→	今期は、出荷に回復傾向が見受けられ輸送需要が増している。旅客需要も増加しているが燃料等物価高が進んでおり、認可料金のタクシー運賃は価格転嫁が出来ず厳しい状況にある。貸切バスについて「松江市外出支援事業」を利用する団体が非常に多く、増収に繋がっている。一方で乗務員・管理者の高齢化が進んでおり、若手人材不足が深刻である。来期は、出荷状況が不透明であり、先行き不安である。また「2024年問題」が喫緊に迫っており、労働時間の改善などの対応に追われる。また、それに伴い輸送能力の低下、モノの流れの停滞が懸念される。

※売上の前年同期比について → → ↓ により表しています。